

学校だより 「花里の子」

令和5年度 第21号

伊丹市立花里小学校長 小木曾 笑子

大切なあなた・・・健康教育参観

1月31日のオープンスクールには、たくさんの保護者のみなさまに来校いただき、子どもたちの様子を参観していただきました。3時間目の健康教育参観では、「性教育」に関する分野を取り上げました。近年、子どもたちの性に関する問題行動やSNSで出会った人とのトラブルなどが低年齢化してきているように感じます。本校では、花里の子が「性」に対する正しい知識をもち、自分を大切にする心をもった人に育ってほしいと願い、各学年のカリキュラムに位置づけて、発達段階に応じた学習を行っています。

今年は、一般社団法人「小さなドア」代表の永原郁子助産師を講師にお招きし、6年生への出前授業「大切なあなた～命と性のお話～」と保護者向け講演会「家庭で伝えたい いのちと性の大切さ」を実施しました。授業を受けた6年生の感想の一部を紹介します。

6年生の感想

- 命はすごいもので、新しい生命に向けて覚悟や決心が大事だと思いました。新しい命をつくるには愛も大事だと思いました。
- 友だちや家族を大切にすること、自分を大切にすること、どちらも大事だと思いました。今まであまり意識していなかったので、これからは少しでも意識してみたいです。
- 友だちにきつい言い方をするときがあります。自分の大切な友だちだから、大切にしたいなと思いました。
- お母さんは、わたしを産むためにいろんなことを頑張ってくれたんだと思いました。もうすぐ反抗期になるかもしれないから、あまり家族に強く当たらないようにしようと思います。
- 愛し合っているからと言って、何でも許してしまうのは絶対だめ。よく考えてから行動しようと思った。
- ぼくの心や体は、お母さんやお父さんやいろいろな人に大切にされてきたことがよく分かったから、体を大切にしていきたいです。
- 人生は長いと思ったけど、一年は思ったよりあっという間に過ぎるから、人生一つ一つ自分の好きな遊び等の時間を大切にしたいと思いました。
- 女の人は、子供を産むためにすごく苦勞しているんだなと思いました。あまり知らない言葉もあって、分からないこともあったけど、とても勉強になりました。

保護者対象の健康教育講演会では、視点を変えて大人向きの話をしていただきました。ご両親揃って参加していただいたご家庭もあり、嬉しく思っています。子どもたちの健全育成のため、家庭と学校が連携して行っていくことが大切な分野だと考えています。お子様との話題に取り上げていただきたく、性教育に関する本を裏面に紹介させていただきます。

お忙しい中、講演会に参加していただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

お互いのパーソナルスペースを守ろう！

校内研修会でスクールカウンセラーから「パーソナルスペース」について教えていただきました。「パーソナルスペース」は、心理学用語で、コミュニケーションをとる相手が自分に近づくことを許せる、自分の周囲の空間（心理的な縄張り）のことです。例えば、それほど親しくない関係なのに、相手があまりに近すぎると「なんか近いな…」と不快に感じたり、仲良しなはずなのに遠い距離で話されると「なんかよそよそしいな…」と違和感をもったりします。これは、適切なパーソナルスペースが保たれていないことによるものです。目には見えない自分の感覚として、相手との関係によりふさわしい距離感が存在しているのです。一般的なパーソナルスペースの距離感覚は、下の図の4つとされています。

人なら誰しも持っている個人の感覚ですが、人によって個人差があり、性別や年齢などによっても差が生じます。スクールカウンセラーによると子どもたちと不快感を感じずにコミュニケーションをとれる適切な距離を確認したところ、80cm程度だったそうです。

友だちのパーソナルスペースを守ることが、円滑な友人関係を築くために必要（ofeeより引用 - <http://ofee.tank.jp/portable-territory/>）なのではないでしょうか？お子様は、適切な距離感を保つことができますか？友だちに対して、家族と同じような距離で接していませんか？子どもたちは、時折、無意識のうちに人との距離が近くなりすぎる場合があります。そんなときは、そっと声をかけてあげてください。



親子で読める絵本



子どもの性教育は誰が担当すべきか、とたずねると多くの親は「それは学校でしょう」と言い、先生たちは「やっぱり家庭でしょう」と言います。しかし、多くの国では「学校でも家庭でも」と熱心に取り組むようになってきています。我が国でも責任の押しつけ合いをやめて双方が腹を据えて取り組む時代になりました。それほど、子どもをとり巻く性の環境が難しく危うくなっているからです

(『うち性教育はじめます』あとがきより)



保健室に置いています

永原郁子先生の著書